

野球 ～豆知識～

ルール編②

インフィールドフライの成立条件

インフィールドフライは以下の3つの条件を満たした時に、審判が「インフィールドフライ」と宣告すると成立します。インフィールドフライは審判のうちの誰か一人でも、宣告すれば成立します。

【インフィールドフライ成立の条件】

- ①アウトカウントが0アウトまたは1アウトの時
- ②走者が1塁・2塁、または満塁の時
- ③内野フライが上がった時

①アウトカウントが0アウトまたは1アウトの時

ルールの目的(後述)を踏まえると2アウトの時には適用する必要がないので、0アウトか1アウトの時のみが条件です。

②走者が1塁・2塁、または満塁の時

走者が1塁のみの時は適用外です。

③内野フライが上がった時

バントからの小フライやライナー性の打球の場合はインフィールドフライの適用になりません。内野フライなら何でも適用されるわけではなく、内野手が無理なく捕れるであろうと審判が判断した時のみが対象です。バントのフライや緩いライナーをわざとワンバウンドで捕球して、ダブルプレーを取るのは、たまに見かけますね！

インフィールドフライが成立すると打者は、ただちにアウトになりますので走者はフォースアウトになることがなくなります。

そのため、インフィールドフライが成立した後に、走者は元の塁にリタッチする義務が生じます。インフィールドフライの成立は審判がインフィールドフライを宣告した時なので、その後に野手が落球したとしても、走者はタッチアップが必要になります。

インフィールドフライのルールが存在する理由は、野手がフライをワザと捕らずに地面にボールを落とせば簡単にダブルプレーを取れてしまうので、それをなくするのが目的です。

故意落球との違い

インフィールドフライに似たルールとして、故意落球というルールがあります。

故意落球とは、内野手が普通に捕れるであろう内野フライをワザと落としたと審判が判断した時に適用されます。打者はただちにアウトになり、ボールデッドになります。走者は元いた塁に戻ります。インフィールドフライの場合は、ボールインプレーのままなので、プレーが続行されます。

また故意落球が適用される走者の状態は、走者が1塁、1塁・2塁、1塁・3塁、満塁の時です。これもインフィールドフライとの違いです。

ちなみにインフィールドフライが宣告された打球を内野手が落球した場合は、インフィールドフライが優先され、故意落球は適用されません。

以上が、インフィールドフライのルールです。